



第 83 号 (年 4 回発行) 編集発行 弘前学院大学 弘前報 印刷所 (有)小野印刷所

令和2年度 学位記授与式

2021年(令和3年)3月13日(土)10時

弘前学院大学学長 吉岡 利忠



この一年、誰もが予想すらしなかった新型コロナウイルス感染に翻弄され、今もなおその影響が続いており、目に見えない極小の病原体ウイルスが原因。この

ウイルスは一ミリのメートルの百万分の一の大きさで電子顕微鏡を用い、ネガティブ染色によってやっと観察することができ、トゲトゲのある形態をしておりテレビなどの報道で見たことがあるでしょう。生きた細胞に侵入しなければ増殖できないので、生物(いきもの)であるかどうか、今なお議論されています。いままでも人類はこのウイルスに感染した



写真：東奥日報社提供

このような環境下では、特に私たち一人ひとりの健康が極めて重要になります。たとえウイルスを始めさまざまな病原菌の侵入があっても健康体であれば原因ウイルスや感染に対する抗体を

獲得して適切な防御機構が働きます。社会で活躍しようとする皆さんにあつては自分の健康は自身で管理しなければなりません。本学では適切な情報をいち早く受けて、さまざまな感染防止



中長期目標実施計画の 確立・実践に向けて

学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘



『「教育改革の本丸」 グランドデザイン 答申』

今年度を振り返ってみると、日本が新型コロナウイルス感染に翻弄された感がある。その状況下で、いかにしたら本学院が教育研究機関としての機能を果たせるのか、苦慮する毎日であった。

さて、本題であるグランドデザイン答申に戻るが、前々号で述べたように、国立大学関係者はこの答申を大学改革の大本とするべきだと歓迎の意向を示した。それに反して、私学関係者からは審議に入る前から多くの批判が出た。

その点では、答申の冒頭に述べている「学修者本位の教育」は、各大学が追い求めてきた教育目標であり、本学にとっても教育の柱の一つである。国私の区別なく、全大学が共通の目標として向き合うべきテーマでもある。

この現状の中で、日本の大学は海外の大学と比較して学習時間が極めて短い。加えて、教育の質保証についても取り組んでいる大学とそうでない大学が二極化し、多くの大学

は避けて通っている。しかし、今は時代の要求として、学生の成長とデプロマポリシーへの到達が求められている。その検証と評価、および外部への公表こそが、やがて社会の信頼を得ることに繋がっていく。

もともと、日本における教育の質保証は、大学設置認可とその後の大学認証評価の組み合わせで成り立っている。本学も、教学改革を推進するための教学マネジメント指針を示し、それに沿って改革を推進しなければならぬ。

学生は成長について根拠を示して公表すること、問題点を改善しているのかどうか事実を示して証明することが急務となっているのである。今までのように、総論や一般論の議論をしているだけでは通用しない。

具体的な実行と、成果の公表が強く求められる段階にきていると言える。 2021年(令和3年)2月16日(火)、弘前市野田のラグリーにおいて、学長の長年にわたる体力科学運動生理学、スポーツ医学などの研究に従事した功績によるものである。毎年、スポーツに関する指導者・ドクター・科学者・トレーナーなど200人、300人を対象として「青森県ビクトリーサミット」を開催し科学的見地から運動能力向上を支援し、青森県のスポーツ競技力向上に力を注いでいる。弘前市のみならず青森県および首都圏においてもスポーツ医学に関する多くの委員会での要職を務めていることも受賞された理由である。その功績は大変顕著であると評されている。

吉岡学長、令和2年度弘前市スポーツ賞・功労章、を授与される



下段左側：吉岡学長

2021年(令和3年)2月16日(火)、弘前市野田のラグリーにおいて、学長の長年にわたる体力科学運動生理学、スポーツ医学などの研究に従事した功績によるものである。毎年、スポーツに関する指導者・ドクター・科学者・トレーナーなど200人、300人を対象として「青森県ビクトリーサミット」を開催し科学的見地から運動能力向上を支援し、青森県のスポーツ競技力向上に力を注いでいる。弘前市のみならず青森県および首都圏においてもスポーツ医学に関する多くの委員会での要職を務めていることも受賞された理由である。その功績は大変顕著であると評されている。



### 吉岡利忠学長最終講義

## 「路、ひとすじ」

令和3年3月5日に、井上文学部長の司会で、楊宗教主任の折衝、薬科副学長の業績紹介の後、吉岡利忠学長の最終講義が実施されました。



最初に昭憲皇太后のスライドを見た途端、男女間格差や西欧化の話題から始まる講義内容の展開しか見えませんでした。ご自身の出身大学である東京慈恵会医科大学の「慈恵」の命名者であることがわかりました。

講義は門外漢でもわかるように、筋肉についてその色から赤筋、白筋に分かれ、持久力と瞬発力の関係について、発生張力と収縮時間に差が見られることが示されました。マラソンのような長距離走を行うアスリートでは、骨格筋に貯蔵されるグリコーゲンが限られていることから30kmほどで枯渇し、グリコーゲンを生み出すことが必要になり、欧米ではスパゲッティ、日

本ではうどんやそばが用いられているとのことでした。

生体下での環境確保のための宇宙環境や単一筋線維の分離法、瞬間凍結技術、測定装置を求めて岡崎へ通った話など学問への真摯な取り組みが必要だと論じて頂きました。

会場には、出身校の東京慈恵会医科大学、在職した聖マリアンナ医科大学、青森県立保健大学等からの祝花が飾られ、華やかな雰囲気でした。講演終了後、祝電が読まれ、花束贈呈も行われました。

今年度、私のゼミにおいて、何とか論文を完成させた学生が出た。社会福祉学部においては、論文は必須ではなく、しかも社



### 談話室

## 自殺の認識— 否定と許容

社会福祉学部 講師 柘植 秀通

彼女が作成した論文は、自殺についてであった。自殺とは許されるべき行動であるのか、許されざる行動であるのかという、テーゼについての検討を行うペーパーであった。自殺という事象は、世界的に見ても、重要な事象であり、死亡原因の15位以内に位置し、殺人による死者数に倍するものである。この

彼女が作成した論文は、自殺についてであった。自殺とは許されるべき行動であるのか、許されざる行動であるのかという、テーゼについての検討を行うペーパーであった。自殺という事象は、世界的に見ても、重要な事象であり、死亡原因の15位以内に位置し、殺人による死者数に倍するものである。この

彼女が作成した論文は、自殺についてであった。自殺とは許されるべき行動であるのか、許されざる行動であるのかという、テーゼについての検討を行うペーパーであった。自殺という事象は、世界的に見ても、重要な事象であり、死亡原因の15位以内に位置し、殺人による死者数に倍するものである。この

### 講義室の窓から—

## 或る履修者との会話

文学部 日本語・日本文学科 教授 鎌田 学

二〇二〇年は、M・ヴェーバー没後一〇〇年にあたっていました。これを機会にかの『プロテ

スタンティズムと資本主義の精神』(岩波文庫 大塚訳)を授業「哲学と倫理B」のテキストに選びました。進行の形態は、冒頭に私がポイントの解説を行い、その後週の担当者が指定された範囲の要約と、最後に、自分の関心にもついで調べたこと(歴史的事象が多い)をプレゼンします。この後、ヴェーバーの記述内容に関する寸評を六〇〇字程度で履修者全員に書いてもらい、翌週返却。最終レポートの材料にします。次は、

授業後私に話しかけてきたSさんとの会話です。

S.. ヒロガクのルーツが、プロテスタントのメソジスト派の人々であることを初めて知りました。

私.. そうなんだ。ヴェーバー自身、論中で少し言及しているくらいで、彼の論述の主眼は他の派に置かれているけどね。

S.. 西洋での資本主義の誕生を、キリスト教のプロテスタントイズム、とくに清教徒の信仰心に求めるのは初めて知りました。

私.. でも、この著作自体は

多くの論争を引き起こしたし、いまだに批判的になつてもいいよ。「真実」とまではいえませんが、「仮説」ととりあえず考えようといういかも。

S.. そうなんですか。

私.. しかし、だからといって価値のない本とはいえない。ルターによる聖書のドイツ語翻訳の話から、カルヴァン主義、新大陸アメリカにおけるベンジャミン・フランクリンの堅実かつ勤勉な人生観などは、いま読んでみても十分に面白い。

S.. そういえば、先週、現代資本主義のかかえる「格差問題」について、先生が紹介したNHKの番組は何でしたっけ。

私.. 「欲望の資本主義」。でも、実は放送を見ていなくて、書籍化されたものしか知らないんだよ。

S.. 「ヴェーバーは、労働は禁欲と言っていたが、いま労働は欲望になった。」と先生が言っていたことを覚えています。

私.. そう。時代を隔てて労働の意味が変化したことを言いたかったんだよ。

S.. 禁欲は欲望か?

私.. もちろん、生活のために労働するのは現代でも同じなんだけど、一部の人たちにとっては貪欲のために労働するということが起こっているんだよ。

S.. ああ、「Greed is good」ってね。

私.. そうかもしれない。でも、あなたも卒業して、働くつもりでしょう。働くということはどう理解しているのかな。

S.. ..



私.. 働くことを当たり前のことだと思つてれば、すぐには答えられないかもね。しかし、それを考えるきっかけにこの授業がなつていれば、こちらのねらい通りだよ。

S.. あっ、そのテーマでレポート書いてみます!

ような問題に切り込んだことは、非常に有意義なことであり、これからの彼女の人生においても、大いに役立つことであろう。

自殺に対する西欧の考え方と、日本の考え方には大きな違いがある。特に、日本人の心の中には、心中に対し、許容する傾向が強くある。曾根崎心中などの心中ものに代表される共感の意識がそこにある。明治に入っても、芥川や太

幸に代表される心中へのあこがれのようなものがそこにある。この結果、欧米において母子心中を図った母親が、全くそのつもりもなく、ベビーキラーの名前で呼ばれ、凶悪な犯罪者として扱われるという事例もある。また、特に切腹に代表される形式化された畏敬の対象となる自殺すらある。

このような西欧と日本の大きな違いの底には、文化的・宗教

### 本年度最終のヒロガク教養講話

学長 吉岡 利忠

ヒロガク特別講話が2021年(令和3年)1月21日(木)本学一号館4階の大講義室で開催され、タイトルは「性的少数者LGBTQ その理解と現状 スポーツと性」でした。小林啓三先生は本学の客員教授であり、東京慈恵会医科大学で基礎生理学や運動生理学の研究に従事し、国際武道大学で教鞭をとり、多くの保健体育教師や運動指導者を養成しております。その間、学生指導に関する相談や授業を進める上で、性的少数者を取り巻く課題について知ることの重要性や必要性について調査や研究を行っております。先ず近年、言葉としてのLGBTQについては知られるようになりましたが、まだまだ正確な情報は持ち合わせていないようです。それぞれを身体的、心理的およびこころの問題から丁寧な説明があり、その後から手摺をあげて紹介しております。特に小林先生の専門である体育分野からエリートスポーツ選手、オリンピック選手にお



同じく本学の客員教授であります大木トオル先生のヒロガク特別講話は1月28日(木)に同会場で開催されました。大木トオル先生は本学客員教授であり、数回、講演しております。弘前市医師会からも講演要請があり、その講演では多くの市民視聴者に感動を与えておりました。国際的に著名なブルースシンガーであるとともに日本で初めての動物介在療法を広めている方でもあります。「人と犬との共生く命あるもの幸せになる権利がある」と題して1時間半近くの講演でした。日本では動



物的な相違が存在する。この相違について、彼女は踏み込み、自殺が許されるべきかどうかという点に迫った。特に、日本人の持つ特性に鑑み、さらには、いかに自殺に対処すべきかを考察してみせた。この自殺への認識が、将来彼女にどのような指標を示すかはわからないが、大きな一歩となったことを感謝している。是非、この経験を生かしてほしいものである。

物愛護センターなどで捨て犬を処分することが諸外国より厳しい非難を受けていることを憂いし、その境遇にある犬をセラピードッグ(治療犬)に養成する施設を立ち上げ、首都圏はじめ多くの医療施設に導入し、入所している患者さんの治療の手助けで活躍していることなどを示しておりました。青森県からの捨て犬も養成され、日本で最初のセラピードッグの銅像が東京築地にあることを紹介しておりました。また、東北震災で被災した犬の除染からセラピードッグに育て上げた例も示し、感動的な講演でした。

両講演とも新型コロナウイルス感染症対策を施し開催されました。両講演とも本学の学生や教職員にとり極めて有意義な内容でした。

# 卒業研究を終えて

看護学部 看護学科4年 木村絢芽 高橋琴乃



2月20日(土)、看護学部の卒業研究発表会が行われました。この日の発表のために私たち看護学部の4年生は、担当教員と共に、実習や就職活動、国家試験の勉強などと平行しながら卒業研究を進めてきました。

私たちは、「幼児期・青年期の双子をもつ母親の育児不安内容」2つの事例から見えてきた「育児への思い」というテーマで研究を進めてきました。先行

研究から、多胎児の母親は単胎児の母親に比べ不安を抱きやすく、育児に押しつぶされ感を感じることが分かりました。さらに、先行研究では、乳幼児期の多胎児をもつ母親への調査はあつたのですが、学童期・青年期の多胎児をもつ母親への調査がないことに気づきました。そこで、私たちは、幼児期の多胎児をもつ母親1名と青年期の多胎児をもつ母親1名を調査の対象とし、研究を行いました。

調査方法として、アンケート調査を行い、児の発達段階別に育児中に嬉しかったこと、大変だったこと、一番育児不安を感じた時期を聞き、自由記載欄ではその具体的な内容を記載してもらおうようにしました。学童期・青年期の双子をもつ母親への研究がないため、アンケート調査から得られた母親のニーズに応じた支援の充実化を図る必要があると思われました。

この研究で、乳幼児期、幼児期だけでなく青年期までの長い期間で双子の育児を理解し、一例一例を継続的に支援していく必要があると学んだため、この学びを臨床の場でも生かしていきたいと思えます。

# 弘前れんが倉庫美術館への「文学散歩」

日本語・日本文学3年 柴田 優貴

2月8日に、弘前れんが倉庫美術館にて「文学散歩」を行いました。私は、今年度の「文学散歩」の企画担当をしています。今回の企画は、学芸員資格の取得を目指す方にとっては特に興味深いものだったのでないかと思えます。

今回鑑賞したのは、開館記念「秋冬プログラムの「小沢剛展」です。ブースごとに映像と絵が展示されていて、二つが合わさって一つの作品になっているように感じました。絵を一枚一枚じっくりと鑑賞したり、ブース全体を見渡して見え方の違いを味わったりしながら、独特な世界観に浸りました。

ガイドの方に、美術館の建物についてのお話を伺いました。煉瓦倉庫は元々、シールドルを醸造する倉庫などとして使われていて、改修の際、煉瓦倉庫の名残を感じられるような造りにしたそうです。また、入口の煉瓦は通称「弘前積み」と呼ばれる

象に残りました。左右に4枚ずつ展示された絵の風景が、右と左で対になっていたのが印象的でした。今年度はこの企画の他に、10月に三沢市で寺山修司記念館などを巡る企画を予定していましたが、コロナ禍で断念せざるを得ませんでした。しかし、企画するにあたって寺山修司について調べたことが予備知識となり、この展示に興味を引かれることに繋がったのではないかと思います。

# 英語・英米文学科の卒業研究のポスター発表会

2021年1月30日(土)

英語・英米文学科では卒業研究のポスター発表会を開催しました。今年度の4年生が自分の卒業研究についてのポスターを作成し、学会のポスターセッションのような形で発表しました。発表は英語によるものも日本語によるものもありました。将来の卒論テーマと研究方法の参考となるように、これま

# 看護学部FD講演会を終えて

看護学部FD委員会委員長 大瀬 富士子

看護学部では大学教育の根拠に立ち返ることを目的に、大学で学ぶことについての講演会を2年続けてきましたが、今年度は、もう一つの核となる研修として学生支援について深めたい

と考えました。特別な支援を要する学生については、多くの大学が対応に取り組んでおり、本学でもそれぞれがきめ細やかな支援を行ない看護学部ではチューター制度で支援を行っています。しかし、支援を要する学生へは、暗中模索しながら対応しているところがあります。そこで学生相談の第一線で活躍されてきたお話を聞きたいと思いましたが、春からは展示を一新すると聞いたので、今度は個人でも行ってみたいと思いました。

テーマは「学生相談による理解と支援」特別な支援を要する学生対応のヒントと、講師は弘前大学保健管理センター講師で臨床心理士の高橋恵子先生。日時は令和3年2月17日(水)17:40~19:10。参加人数は17名(看護学部9名、文学部・社会福祉学部5名、事務局3名)でした。時間帯により参加したくてもできない教職員が多いため、講師へ録画の許可をいただき、機器管理センター職員のアドバイスを受けながらTeamsでオンデマンド配信



## POLITENESS

米文学会の学会誌に掲載しました。学会誌は以下のURLで閲覧できます: <https://www.hirogaku-u.ac.jp/faculty/bungaku/activity/literature/>



並びにDVD閲覧をおこないました。それにより多くの方の講演会参加が可能となりました。「つまづきを次につなげ、心の成長を支える支援」「頭の理解と違う、心も問題」「人間の心はなぜ思い通りにならないか」「自分の心の構造を知る」「人間の心にはいくつかの力が働いている」「ほとんどの人は、自分の心が一つと考えている。それを3つ、あるいは5つの別の自分と考えると理解できる」「1つの心が決まっても他の心が反対してしまう」など、とても考えさせられる講演でした。私自身が学生支援時に、こう考えるともっと生き方が楽になるのではという思いでアドバイスすることがあったが、変わりたくても変わらないこと、また頭でわかっても心が反対してしまっていることを考えさせられました。心の構造を知るエゴグラムが活用され、P、A、Cそれぞれが葛藤があり、頭でわかっていても、お腹が痛い等気持ちの葛藤がある。変わるには時間がかかる、いわゆる心の悩みは思い通りにならないことを理解する。C優位の学生は、変わりたいでも変わりにくいという心

# 日本ソーシャルワーク教育学校連盟の成績優秀者表彰される

この度、二〇二〇(令和二年)度の成績優秀者が決まりました。

この賞は、社会福祉士・精神保健福祉士養成課程修了者で、学業成績・人物ともに優秀である学生に対し贈られるものです。日本ソーシャルワーク教育学校連盟成績優秀表彰者は、清野孝宜さん(社会福祉士養成課程)、田村晃大さん(精神保健福祉士養成課程)です。



二〇二〇年度 理事長賞授与者

文学部 英語・英米文学科 山口 尚人  
 日本語・日本文学科 下山 あり紗  
 社会福祉学部・社会福祉学科 須藤 咲季  
 看護学部・看護学科 蝦名 弘好

### 四年間の大学生活

文学部 英語・英米文学科卒 山口 尚人



大学での四年間を振り返ると思い浮かぶのはいい思い出ばかりで、とても充実していました。入学後にリトリートがあり、教員、同期の学生と一日過ごすことですぐに仲を深めることができ、いい大学生活のスタートを切ることができました。

私は英語教員になるために

英語・英米文学科に入学し、教職課程を履修することに決めました。教職課程を履修することで講義の数はとても多く、テストやレポートは大変でしたが、一緒に教職課程を履修していた仲間たちと勉強する時間がとても楽しく、そのようなことも乗り越えることができました。その結果、無事中学・高校英語の教員免許を取得して卒業することができ、嬉しく思います。また、

### 卒業を迎えて

文学部 日本語・日本文学科卒 下山 あり紗

大学での四年間は、長いようであつという間でした。入学当初は期待よりも、これから上手くやっていけるのかどうか、不安に思う気持ちの方が大きかったことを今でも覚えています。しかし、優しい友人たちや先生方に囲まれ、本当に充実した時間を過ごすことができました。当時は何気なく過ごしていた友人との時間が、今になって思い返し

てみると特別なものを感じられます。大学生活は楽しい反面、大変だと感じることもたくさんありました。講義の多さに戸惑い、課題に追われ、ついに行くのがやっとだった頃もありました。課題発表や実習、就職活動が思うようにならず、悩むことも多かったです。けれど、悩んだ時はいつも友人が支えてくれました。友人の

一緒に頑張ってがんばることができた仲間たちにも感謝しています。しかし私は、教員の道には進みません。在学中に自分のやりたいことが見つかったからです。大学生活では自由な時間が多く、その中で自分の夢が他に見つかりました。これを活かせるように過ごしていきたいと思っています。

大学を卒業するまでに就職活動をして、卒業後の就職先を見つけてなければなりません。その際、自分のやりたいことを職業にできるようにしてほしいと思います。そうすればきっと社会人生活も充実するはずで、ぜひ大学生活のなかで色々なことに挑戦して自分のやりたいことを見つけてほしいと思います。

長いようでとても短かった大学での四年間を良いものに存在がなければ乗り越えられなかったことが、数えきれないほどあります。励まし合い、共に乗り越えてきた友人には感謝しかありません。また、大変だった出来事は一方で、自分を成長させてくれるものでもありました。特に実習を通して学んだことは、自分を大きく変えてくれました。現場で実際に体験してみることが初めて分かったことがたくさんあります。実習では必要な知識を学ぶことができただけでなく、視野を広げることができたと感じています。

### 大学生活を振り返って

社会福祉学部 社会福祉学科卒 須藤 咲季



できたのは、家族はもちろん、空きコマがあればどこかに遊びに行ったり、休日には夜遅くまでバーベキューをしたり、どんなことにも付き合ってくれた仲間たちや、英語・英米文学科ならではのフランクな関係性でイベントを盛り上げてくださった教員のおかげだと思っています。四年間の思い出作りに関わってくれた全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

四年間の大学生活も終わりを迎え、寂しい気持ちでいっぱい

大学で過ごした日々を振り返ると、とても満足のいく四年間であつたと感じております。入学当初は、これからの

## 祝卒業

### 四年間の大学生活を振り返って

看護学部 看護学科卒 蝦名 弘好



大学生活に対する大きな期待と喜びで胸を膨らませていたことを思い出します。大学生活においては、日々の講義が楽しく、空き時間を活用してまで、講義内容の復習に励んで参りました。さらに、オープンキャンパスのスタッフやボランティア活動に積極的に参加し、自身の活動の幅を広げました。そんな充実した大学生活に於いても、時には悩み、立ち

止まることも多くありました。講義や演習においては、学年が上がるにつれ、より専門的な知識や考えが求められることから、プレッシャーを感じ、なかなか前に進めないときもありました。社会福祉・精神保健福祉実習においては、専門職として対応することへの難しさを痛感し、自分にこの仕事は向いていないのではないかと不安に思うこともありました。そんなとき先生方の丁寧なご指導やアドバイス、友人からの励ましがあったおかげで、自分を客観的に見つめ直し、

前に進むことができました。さらには、日々成長し続ける自分に喜びを感じるようになりました。本当に嬉しく思います。四月からは、社会人としての自分の決めた道に進みます。そこは、決して容易な道ではなく、自分の思うままに進むとは限らないと思います。そんな時は、大学四年間で培ってきた経験や学びを思い出し、乗り越えていきたいと思っています。

新しい学び舎で、看護の道を目指そうと期待や不安を持ちながら入学したのがすでに四年前。卒業の時を迎え、色々な思いが出がその時の感情を交えながら思い出される。入学しては、それまでの学び方とは違う、大学ならではの学び方にその都度戸惑い、どう学んでいくかに四苦八苦していました。しかし、友と互いに助け合いながら、いつの間にか学び方を覚えていた。そのあとに待っていた幾度の困難な時も友や先生、家族に支えられ、今こころ

まで来ることができた。そんな中でも、国家試験や実習は自分の力だけでは乗り越えることができなかった。知識の部分は自分自身で補えても、精神的な面は自分一人では保てなかったと思う。多くある思い出から一つ取り上げるとすれば、実習の朝、引率の先生や友と、「残り1日、乗り越えていきましょう。」と士気を高め合ったこと。このことで互いに実習に励む友を感じながら、自分も頑張らねばと思っていたことをよく覚えていて。そんな友やお世話になった先生方とは、卒業を機に頻りに会うことがなくなると思うと、怪しい気持ちがかみ上げてくる。

この四年間で得られたのは看護の知識だけではない。友と喜怒哀楽をもって遊んだ、かけがえのない記憶も四年間で得た大きなものだ。夏休、暇や冬、春季休暇を利用し、岩木山への登山、バンガローへの宿泊、オープンカーでの海辺のドライブ、その他さまざまな経験を友とはしてきた。一年生、二年生の時分は、「友とはまだまだ何度も会える。」と自身に言い聞かせていたが、そんな言葉ももう使うことはできない。なぜもつと会わなかったのか、今になって後悔の念だけが先立ってしまう。

活していききたいです。常に多くの支えがあったからこそ、こうして無事に卒業の日を迎えることができました。今までお世話になった先生方、ともに楽しい時間を過ごした友人たち、そして一番近くで私を支え見守ってくれた家族には、本当に感謝しています。四年間本当にありがとうございました。

先生、家族に支えられ、今こころまで来ることができた。そんな中でも、国家試験や実習は自分の力だけでは乗り越えることができなかった。知識の部分は自分自身で補えても、精神的な面は自分一人では保てなかったと思う。多くある思い出から一つ取り上げるとすれば、実習の朝、引率の先生や友と、「残り1日、乗り越えていきましょう。」と士気を高め合ったこと。このことで互いに実習に励む友を感じながら、自分も頑張らねばと思っていたことをよく覚えていて。そんな友やお世話になった先生方とは、卒業を機に頻りに会うことがなくなると思うと、怪しい気持ちがかみ上げてくる。

先生、家族、大学生活を陰ながら支えてくれた事務の方々に感謝し、単純ではない色々な意味を込め、「ありがとうございます。」とだけ言いたいと思う。